

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
履正社国際医療スポーツ専門学校		平成10年4月1日		池尾 忠思		〒532-0024 (住所) 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人 履正社		大正11年4月1日		釜谷 等		〒532-0024 (住所) 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6353-6592																							
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																				
文化・教養	文化教養専門課程		スポーツ学科 (バスケットボールコース)		平成 7(1995)年度		-		平成29(2017)年度																				
学科の目的		本学科は教育基本及び学校教育法ならびに関係諸法令従い、文化・教養専門課程を設置し、その理論と実技を授け活力のある人材を育成し、社会環境の向上に寄与し、もって人類の福祉に貢献する人物の養成を目的とする。																											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		本学科は、スポーツ・健康産業において必要とされるアスレティックトレーナー、パーソナルトレーナー、フィットネスイストラクター、そしてバスケットボール・水泳etcの指導者を養成している。取得可能な資格は、日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者、バスケットボール、水泳etcのコーチ資格である。																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,880 単位時間	750 単位時間	300 単位時間	300 単位時間	0 単位時間	1,530 単位時間																			
					単位	単位	単位	単位	単位	単位																			
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																						
280 人	73 人		0 人		0 %		8 %																						
就職等の状況	■卒業者数(C)		24 人																										
	■就職希望者数(D)		14 人																										
	■就職者数(E)		14 人																										
	■地元就職者数(F)		13 人																										
	■就職率(E/D)		100 %																										
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		93 %																										
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		58 %																										
	■進学者数		10 人																										
	■その他																												
	-																												
(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)																													
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生)																											
主な就職先、業界等については、チーム(プロ・アマ)・スポーツ関連団体・企業、施設・福祉介護施設や民間企業等多岐に渡る。																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL -																												
当該学科のホームページURL	http://www.riseisha.ac.jp/																												
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)																												
	<table><tr><td>総授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>330 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>240 単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>330 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>150 単位時間</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr></table>											総授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	330 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	240 単位時間	うち必修授業時数	330 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	150 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間				
総授業時数	1,860 単位時間																												
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	330 単位時間																												
うち企業等と連携した演習の授業時数	240 単位時間																												
うち必修授業時数	330 単位時間																												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間																												
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	150 単位時間																												
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																												
	(B: 単位数による算定)																												
	<table><tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr></table>											総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位				
総単位数	単位																												
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																												
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																												
うち必修単位数	単位																												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																												
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																												
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																												
教員の属性(専任教員について記入)	<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>5 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>6 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>2 人</td></tr><tr><td>⑤ その他</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>2 人</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>15 人</td></tr></table>											① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人	計		15 人
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人																										
	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6 人																										
	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																										
	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2 人																										
	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人																										
	計		15 人																										
<table><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>9 人</td></tr></table>											上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	9 人																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	9 人																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
本学科の授業内容及びカリキュラム策定の基本方針において、本校に入学してくる半数以上の生徒は、高校で体育系の部活動を経験しており、その大半が部活動での負傷が原因で継続を断念したり、周囲で同様の事例を見聞きしたことのきっかけが動機になり、入学してくる。我が国の高校部活やクラブチームでは、国家免許を所有した専門的な治療家、トレーナーが少なく、資格を有さない者が未熟な処置、トレーニングで選手に影響を与える事は少なくない。現場からも専門家派遣の要請が多く、そのような社会の需要に応えるべく、企業等と連携し、特色的な授業内容とカリキュラムを策定する。具体的には、生徒が目指す高校部活動へトレーナーとして派遣している接骨院、スポーツ整形クリニックでの、臨地研修や体験研修の実施、就職斡旋など、本人達が目指すべき姿を実際に観察させる。また、当該分野にて活躍活動をしている講師や実習先指導者、卒業生の勤務先院長などと、普段から連絡を密にし、情報の交換を行う。将来に向けて、スポーツ振興が活発になり、スポーツ外傷によるケガも増加すると見込んでいる。スポーツ種目は年々、また月ごとに変化しているので、その患者にうまく対応できる、同じ種目経験者の派遣要請や、就職紹介などにも応え、今度増加する社会の変化や要請を教育に落とし込んでいく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校組織図(文化教養専門課程)校務分掌の中に、独立した外部委員会として位置付けた。

カリキュラム編成大綱化が導入され以降、建学の理念に基づく学校の特色や方針を授業に反映させているが、教育課程編成委員会を独立した組織と定義し、今後は企業(スポーツ関連機関など)の声や意見を取り入れ、スポーツ産業の変革に適應できるよう、カリキュラムを編成していきたい。具体的には、スポーツ学科担当教員による週例会議でカリキュラム編成会議を実施し学科長会議を経て教育課程編成会議にて議論を行う。最終は校長・教頭会議で決裁される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
西脇 雅人	大阪工業大学 一般社団法人日本体力医学会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	②
梅原 哲朗	株式会社 Toughrit	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
和田 竜三郎	株式会社 西宮ストークス	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
池尾 忠思	履正社国際医療スポーツ専門学校 校長	内部委員	—
大江 信一郎	履正社スポーツ専門学校北大阪校 副校長	内部委員	—
山口 宗明	履正社国際医療スポーツ専門学校 スポーツGM	内部委員	—
照屋 博康	履正社国際医療スポーツ専門学校 スポーツGM	内部委員	—
浅村 典正	履正社国際医療スポーツ専門学校 スポーツGM	内部委員	—
竹中 宏	履正社国際医療スポーツ専門学校 事務長	内部委員	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月21日 18:00～

第2回 令和6年9月17日 18:00～

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成会議の中で委員の先生方から「仕事に対するイメージが無いまま就職してしまうと、早期に離職するケースが多い為、学生時代からの積極的なインターンシップへの参加は、卒業後に即戦力として働くには非常に重要なことである」という貴重な意見を踏まえて、長期のインターンシップを授業の一環として取り入れることや今よりも更に企業の方々と連携を取りながら実技・実習に関する内容の授業を積極的に行うようにカリキュラムの見直しを図る。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、スポーツ業界において必要とされる知識・技術に加え社会人としての礼儀作法の習得を目指した職業教育の実施を目的としている。スポーツトレーナー・パーソナルトレーナーとかかわりの深いトレーナー業界フィットネス業界、また競技系スポーツチームと連携し実践的な職業教育を行う。卒業後、各現場にて即戦力となる人材を養成するにあたり、授業開始前に担当教員と綿密に打ち合わせを行い、授業内容の決定だけでなく、履修学生の学修状況や性格、得意不得意などの学生情報を共有した後に授業を行っていただくようにしている。授業においては、専門的な知識の習得は勿論のこと、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の養成も行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携している企業の方より実際の現場に必要な知識・技術を伝授していただく。また、業界の現状を享受し必要なトレーニングプログラムやコーチングテクニックを実戦形式で身に付くように指導を受ける。学期末には企業の先生方より学習評価を受ける。担当教員と企業より派遣していただいた講師の先生および企業スタッフの方と綿密に打ち合わせを行う。授業実施期間中は、学生の熟達度や授業進捗状況の打ち合わせを行い、学生の熟達状況に応じて臨機応変に授業内容の変更も行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
トレーニング実技Ⅰ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	身体運動塾
トレーニング実技Ⅱ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	身体運動塾
幼児体育実践	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	個人個人のバスケットボールスキルを高めること、ゲームシチュエーションでの状況判断をテーマとし、一人一人のレベルアップにつなげる。また、スキルアップと共に、チーム力向上につなげ、実践で使えるような授業展開にしていく。	日本こどもフィットネス協会
フィットネスマネジメント論	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	株式会社Toughrit
CFSC	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	株式会社ティップネス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校が定めている、教員に対する研修に係る諸規定に準じ、業団(日本スポーツ協会や日本水泳連盟など)が開催する講習会、学会、研修会に積極的に参加し、現場の応用技術や臨床知識を修得すると同時に、業界の活動や変化を俊敏に捉え、現場と教育が乖離しないように教育に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	イベントマネジメント実習	連携企業等:	株式会社ストークス
期間:	4/1から3/31	対象:	専任教員
内容	ホームゲームの運営サポート		
研修名:	イベントマネジメント実習	連携企業等:	ヒューマンプランニング株式会社
期間:	4/1から3/31	対象:	専任教員
内容	ホームゲームの運営サポート		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	コーチング実習	連携企業等:	株式会社ストークス
期間:	4/1から3/31	対象:	専任教員
内容	バスケットボールスクールの運営		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者としてトレーナー業界、医療関係者の企業様と共に学校関係者評価委員会を設置し当該専門科目における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営改善の参考とする。学校関係者評価は「私立学校専門学校等評価機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専門学校における学校評価ガイドライン」に則り実施することを基本方針とする。

(2)「専門学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)教育成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	-
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

本委員会において、企業から参画された委員の意見は以下の内容であった。

医療とスポーツを融合した教育方針は理解できるが、職業実践教育においては即戦力が期待されているので、今後この部分の強化が期待される。また、職能教育のみならず、人格育成やスポーツ・医療に携わるにふさわしい人材教育も必要であると意見があった。

職業実践教育及び即戦力に対して、学外での実習において、十分な時間の確保及び質の向上に努めている。

人材育成においては、入学直後に新生一泊研修制度を導入し、人格教育及び社会人たるにふさわしい研修を入学初期段階で実施している。

最後に委員の意見を学校全体に照らしてみると、これまで若年層を主として対象としていたスポーツの概念をシニア世代の予防運動や体操なども含め、高齢者の特徴や疾病事故の予防医学の観点を教育に反映し、今後は改善を進めて参りたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
安村 亮	ラックヘルスケア株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
川上 晃司	スポーツインテリジェンス株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業委員
野柳 俊英	やなぎ整形外科クリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
中谷 功	なかたに鍼灸整骨院	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
清行 康邦	公益社団法人 全日本鍼灸学会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	学識有識者
萩原 嘉彦	ハギーコーポレーション	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.riseisha.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和6年11月28日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

入学者の多くが、将来スポーツ関係に従事したいと考えており、実習概要や校外研修要項を作成し、情報提供として企業等の学校関係者に随時説明を行っている。

また、就職先や実習先の指導者には、入学者の動機や将来希望する専門分野を説明し、出来る範囲でそのような症例やケースに遭遇できる機会の確保を要請している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校案内
(2) 各学科等の教育	スポーツ学科
(3) 教職員	先生紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
(5) 様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
(6) 学生の生活支援	学生の一泊、就職先・キャリアアップ
(7) 学生納付金・修学支援	納付金のご案内
(8) 学校の財務	情報公開(財務)
(9) 学校評価	情報公開(学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.riseisha.ac.jp/>

公表時期: 令和7年7月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 スポーツ学科 (バスケットボールコース))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ホームルーム	進路指導、学級経営を行い、楽しく過ごせる環境を作る。	12通	120	-				○		○		
2	○			キャリアプランニング	自分の仕事人生のプランを設計し、決定するための方策を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
3	○			キャリアデザイン	卒業後の展望をある程度明確にし、そのために行わなければならない学生生活を自らデザインする。	2前	30	2	○			○			○	
4	○			情報処理	Word・Excel・powerpointの基礎的な使用方法を学ぶ。	1前	30	2			○	○		○		
5	○			サービス接遇マナー	社会人としての最低限のマナーを身に付け、ビジネスの現場で接遇として表現できるようにする。	1前	30	2	○			○			○	
6	○			ビジネス実務マナー	社会人常識を身に付けると同時に、就職・編入のための面接対策を意識してその授業を実施。	1後	30	2	○			○			○	
7	○			スポーツ医学	内科的スポーツ障害についての医学的基礎知識を学ぶ。様々な障害がなぜ起こるのか、その発生機序、そして対処方法を理論的に学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
8	○			スポーツ科学	ヒトは身体運動中にどのような生理的反応が起こるのか？運動と反射、運動と筋肉、運動とエネルギー代謝の関係を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
9	○			スポーツ心理学	心理的コンディショニングがパフォーマンスに及ぼす影響を理解し、実際のスポーツ現場で生じる心理的現象に対応できる実践力を身につける	1後	30	2	○			○			○	
10	○			スポーツコーチング論Ⅰ	指導者の役割を理解し、指導内容、指導活動、指導上の留意点を踏まえ、各専門種目の年間計画、日間メニューを作成する力を身に付ける。	1前	30	2	○			○		○		
11	○			スポーツコーチング論Ⅱ	現代社会におけるスポーツの役割・指導者の役割を理解し、今後の日本のスポーツ産業が人のライフスタイルにどのような影響を及ぼすのかを学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
12	○			スポーツマネジメント	日本におけるスポーツの役割と行政の動きを理解し、スポーツ産業を取り巻く提供事業の経営のあり方とマネジメントを現場の状況から多角的に考察し理解する	1後	30	2	○			○			○	
13	○			トレーニング論	トレーニングの基本原則を理解し、筋活動の収縮様式、3大負荷条件をどのようにプログラムするのか？機能解剖学的な観点も踏まえ、クライアントの目的達成のためのトレーニング計画を作成する基礎を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	

(文化教養専門課程 スポーツ学科 (バスケットボールコース))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
14	○			解剖学	身体の基礎となる骨格、筋肉などの軟部組織の構造を理解し、運動指導者として必要な解剖学的基礎知識を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
15	○			リーダーシップ論	リーダーシップに関する基礎的な知識を学ぶことを目標としている。なかでも、指導者やキャプテンなどスポーツ組織の中でのリーダーシップを中心に学習し、身につけることを主眼に置いていく。	2前	30	2	○			○		○		
16	○			発育発達論	誕生から乳児期、幼児期、学童期、思春期を経て、からだが出来上がる時期に関するからだの加齢変化を主に形態から理解する。	2後	30	2	○			○			○	
17	○			障害者スポーツ論	障害の種類や程度を理解し、それぞれに適したスポーツやレクリエーションを提供できる仕組みや社会環境について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
18	○			スカウティング理論	バスケットボールデータ集計・分析に必要な基礎的な力、ディスカッション能力の向上をはかり、統計データを見て相手チームの分析を行うことが出来る。講義内で一人一人が自分の役割を理解し、自チーム・相手チームの分析を行う力を身に付け、コミュニケーション力を養う。	1前	30	2	○			○		○		
19	○			ジュニア指導法Ⅰ	幼少期～ジュニア期に必要なスポーツスキルを実技中心に各種の動きを学ぶ。	1前	30	2		○		○		○		
20	○			ジュニア指導法Ⅱ	幼少期～ジュニア期に必要なスポーツスキルを実技中心に各種の動きを学ぶ。	1後	30	2		○		○		○		
21	○			バスケットボール概論Ⅰ	バスケットボールの歴史を学ぶ。 バスケットボールの発祥と発展の歴史を学ぶ。	2前	60	4	○			○		○		
22	○			バスケットボール概論Ⅱ	バスケットボールの歴史を学ぶ。 バスケットボールの発祥と発展の歴史を学ぶ。	2後	60	4	○			○		○		
23	○			基礎実技Ⅰ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1通	120	8			○	○		○		
24	○			基礎実技Ⅱ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1通	120	8			○	○		○		

(文化教養専門課程 スポーツ学科 (バスケットボールコース))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
25	○			基礎実技Ⅲ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1 通	120	8			○	○		○		
26	○			基礎実技Ⅳ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1 通	120	8			○	○		○		
27	○			基礎実技Ⅴ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1 通	120	8			○	○		○		
28	○			基礎実技Ⅵ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	2 通	120	8			○	○		○		
29	○			基礎実技Ⅶ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	2 通	120	8			○	○		○		
30	○			基礎実技Ⅷ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	2 通	120	8			○	○		○		
31	○			基礎実技Ⅸ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	2 通	120	8			○	○		○		

(文化教養専門課程 スポーツ学科 (バスケットボールコース))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
32	○			基礎実技Ⅹ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	2 通	120	8			○	○		○		
33	○			Workuout I	個人個人のバスケットボールスキルを高めること、ゲームシチュエーションでの状況判断をテーマとし、一人一人のレベルアップにつなげる。また、スキルアップと共に、チーム力向上につなげ、実践で使えるような授業展開にしていく。	1 後	30	2			○	○		○		
34	○			Workuout II	個人個人のバスケットボールスキルを高めること、ゲームシチュエーションでの状況判断をテーマとし、一人一人のレベルアップにつなげる。また、スキルアップと共に、チーム力向上につなげ、実践で使えるような授業展開にしていく。	2 前	30	2			○	○		○		
35	○			ル ー ル ・ レ フ リ ン グ	* ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。 * 日本公認ライセンスの取得を希望する学生への対策として、他連盟へ協力を依頼し各大会に学生を派遣して実践指導をする。 * 国内主要大会に携わる立場として、学生に対してリアル・タイムで現在のバスケットボールに関わる情報を発信する。 * 学生の要望や進路実現に向けコース長と連携を図り、柔軟性を持って授業を展開したい。	1 前	30	2			○	○			○	
36	○			ト レ ー ニ ン グ 実 技 Ⅰ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	1 前	30	2			○	○			○	
37	○			ト レ ー ニ ン グ 実 技 Ⅱ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	1 後	30	2			○	○			○	
38	○			ト レ ー ニ ン グ 実 技 Ⅲ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	2 前	30	2			○	○			○	
39	○			ト レ ー ニ ン グ 実 技 Ⅳ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	2 後	30	2			○	○			○	
40	○			エ ア ロ ビ ク ス Ⅰ	リズム感を養いバスケットボールの技術向上に繋げる。 グループ発表を行うことを最終目標とする。	1 前	30	2			○	○			○	

(文化教養専門課程 スポーツ学科 (バスケットボールコース))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
41	○			エ ア ロ ビ ク スⅡ	リズム感を養いバスケットボールの技術向上に繋げる。 グループ発表を行うことを最終目標としする。	1 後	30	2			○	○			○	
42			○	CPT概論	個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成するため、動作分析・生理学的分析・傷害分析の理解を深め、解剖学的・運動生理学的観点から個々に必要なトレーニング種目や負荷条件の設定方法を学ぶ。	1 後	60	4	○			○			○	
43			○	CPT演習	N S C A - C P T 試験に向けて、パーソナルトレーナーの基礎知識全般を各単元に分け、問題形式で試験への対策を目的とする	2 前	60	4		○		○			○	
44			○	バスケット ボール指導 法Ⅰ	バスケットボールの指導技術について実技を通して学ぶ。	2 前	30	2		○		○			○	
45			○	バスケット ボール指導 法Ⅱ	バスケットボールの指導技術について実技を通して学ぶ。	2 後	30	2		○		○			○	
46			○	スカウティ ング実践Ⅰ	バスケットボールにおけるデータ集計、分析に必要な応用力、基礎力の定着を図る。 ゲーム分析をしながら、グループでのディスカッション能力、バスケットボールの戦術理解、応用スキルを身に付けたい。	2 前	30	2		○		○			○	
47			○	スカウティ ング実践Ⅱ	バスケットボールにおけるデータ集計、分析に必要な応用力、基礎力の定着を図る。 ゲーム分析をしながら、グループでのディスカッション能力、バスケットボールの戦術理解、応用スキルを身に付けたい。	2 後	30	2		○		○			○	
48			○	バイオメカ ニクス	身体の動きを物理的に理解・評価し、効果的な動きを理解する。	2 後	30	2	○			○			○	
49			○	テーピング	スポーツ選手が負傷を予防、もしくは負傷した部位の悪化を防止するために、関節、筋肉などにテープを巻いて固定する方法を学ぶ	2 前	30	2			○	○			○	
50			○	日 本 語 表 現 Ⅰ	卒業後の進路を見据えて、進路先で通用する日本語表現力を身に付けることを目標にする。 作文から小論文への移行をおよび、就職・編入学各筆記試験の過去問題を中心に演習・解説を行い、書くことによる客観的な意見主張ができるようにする。	2 前	30	2	○			○			○	
51			○	日 本 語 表 現 Ⅱ	卒業後の進路を見据えて、進路先で通用する日本語表現力を身に付けることを目標にする。 作文から小論文への移行をおよび、就職・編入学各筆記試験の過去問題を中心に演習・解説を行い、書くことによる客観的な意見主張ができるようにする。	2 後	30	2	○			○			○	

(文化教養専門課程 スポーツ学科 (バスケットボールコース))																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
52			○	ル ー ル ・ レ フ リ ン グ 実 習 Ⅰ	ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。	1 後	30	2			○		○		○		
53			○	ル ー ル ・ レ フ リ ン グ 実 習 Ⅱ	ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。	2 後	30	2			○		○		○		
54			○	外 部 指 導 実 習 Ⅰ	校外の指導現場にて指導を行い学ぶ	1 後	30	2			○		○	○			
55			○	外 部 指 導 実 習 Ⅱ	校外の指導現場にて指導を行い学ぶ	2 後	30	2			○		○	○			
56			○	イ ベ ン ト マ ネ ジ メ ン ト 実 習 Ⅰ	プロスポーツの現場に行き、運営実習を行う。 自分で考え行動する力をつける。	1 後	30	2			○		○	○			
57			○	イ ベ ン ト マ ネ ジ メ ン ト 実 習 Ⅱ	プロスポーツの現場に行き、運営実習を行う。 自分で考え行動する力をつける。	2 後	30	2			○		○	○			
58			○	ス カ ウ テ ィ ン グ 実 習	バスケットボールにおけるデータ集計、分析に必要な応用力、基礎力の定着を図る。 ゲーム分析をしながらグループでのディスカッション能力、バスケットボールの戦術理解、対応スキルを身に付けたい。	2 通	60	4			○		○	○			
59			○	コ ー チ ン グ 実 習	バスケットボールのコーチングに特化した授業を展開。講義の中で一人一人がコーチングフィロソフィーについて考え、発達段階や技能レベルにあった、指導内容や指導方法を工夫するスキルを身に付ける。プレーヤーの健康状態に注意を払い、怪我や病気を起こさせないことを意識した指導を身に付ける。	2 通	60	4			○		○	○			
合計					59	科目	1860										単位時間

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	規定の出席率をみたし、指定された単位数の修得し、卒業試験に合格したものを、卒業判定会議で審査し、校長が認定したものとす	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	学生は、学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を修得しなければ、進級もしくは卒業できない。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。